
電車の窓

楠美紗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

電車の窓

【Nコード】

N54240

【作者名】

楠美紗

【あらすじ】

私は、よく知っているんだ

本当のあなたの気持ちを。

いつも見ているのは。

私じゃなくて、違う人。

私を…どうしたら見てくれるの？

1話（前書き）

私は、よく知っているんだ

本当のあなたの気持ちを。

1話

カタン、コトン

一定の震動に安堵を感じて眠くなってしまつのはいつもの事。

しかも、ここ最近横に私の好きな人である

タカミネトモ
高峰智君がいるんだもん。

本当に落ち着いちゃんだね。コレが。

私はそんなことを思いながら、自分の頭をコテンと彼の肩に乗せた。

そして、ここ最近の日課とでもいうようにして私はうつすら目を開ける。

絶望を知ってしまうのならばやめればいいのに

そう思うかもしれないんだけど、

こんな時でさえキュンッと

胸をときめかせてしまつ自分は

… 本当に彼の事が好きなんだ。
と実感できる。

高峰君とはつい二カ月前に付き合い始めたばかりだ。

好きになったのは、私が先。

高校に入ってから教室の真中で明るく笑っている高峰君の顔に鼓動が高鳴ってしまったのは、今でも私は鮮明に覚えている。

…

付き合い始めて二カ月とは、短いような長いような。

…、そんな感じだ。

でも、それだけの期間でも私は気が付いたことがある。

いつも、帰り道、私が話してる時は毎日ニコニコ笑って私の話を聞いてくれる彼。

…でも、私が疲れが出て眠ってしまうと、その、私の大好きな視線が私ではなく、違う人物を見ていることを私は知ってしまった。

そう、いつも私たちと反対側に座っている、女の子。

明るい茶色の髪の毛に大きな目。

可愛らしい女の子がいつも向かい側に座ってる。

それは、本当に大好きな人を見つめるような優しい視線で。

私が見たこともないような微笑みまで作る。

そのたびに、ズキンズキン…。

心が傷んでしまう。

1話（後書き）

どこで区切れれば良いのかわからない（）笑
しっかりしなげや。

2話

「ねえ、智君」

私が目をゆっくりとあけ隣に腰掛ける彼に話かけると、彼はビクッと身体を強張らせる。

しかし、すぐにいつもの笑顔いっぱい顔に戻ると「なあに？友梨」と優しく聞き返してくれる。

…本当は。今日こそいつも見つめる彼女のことを聞こうとしたのに。

その大好きな声と笑顔に胸が高鳴って。

「なんでもない、」いつもそんなことを言ってしまう。

私が眠りから覚めると、また私に笑顔で話を聞いてくれる。

…智君は、なんで私なんかと付き合ってくれたの？

やっぱりソレはあなたの優しさ？

そんな疑問が沢山溢れだす。

本当に、大好きな智君。

でも、智君が好きなのは私じゃない。

きつと、優しさがあるのならば。

私が智君と別れなきゃ、智君が幸せになれない。

私のマガママに彼を付き合わせて

彼の幸せを奪ってはいけない。

分かっている、

ちゃんと頭では分かっているのに。

心がしつかりと思考についていかない。

やっぱり、もっと、もっと。

幸せを求めてしまう自分はトコトン汚い人間だ。

.....

「ねえねえ」

私は急に話かけられてパッと顔を上げる。

丁度授業が終わりあとはもう、帰宅するだけ、

そう

思っていた瞬間だった。

：昨日考え初めてからずっと智君のことを考えていたセイで私はちよつと大げさな反応をしてしまう。

「あつ、はい、なに??」

しっかりと前を見据えると智君の友達である武田君がいた。

「ちよい、ちよい、話があるんよ」

私の目の前の椅子に腰かけニッコリ笑う彼に私は「可愛い」「そう咳いてしまった。

「え。」

スグさま反応が返ってくる。

ああ、ミスッた。

やってしまった…。

私はそんなことを考えたが、それを誤魔化すために

「あ、そういえばなんで私をよんだの？」

「そつだそつだ！忘れていたよ。」

話を上手く切り抜けてみようと思みると案外楽に話を交わせた。

「ちょっとね、聞きたいことがあるからぞ。」

「一緒に帰らない？」

「…は？」

2話（後書き）

どうしても、文章を上手く切り離すのが苦手。
うん…がんばろう。自分。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5424o/>

電車の窓

2010年10月27日19時45分発行